

市民の参加で都政を変える▶東京を生活のまち、安心・共生・自治のまちに

東京・生活者ネットワーク 都議会議員

岩永やす代

いわなが・やすよ

<https://iwanaga.seikatsusha.me>



生活者通信臨時号 岩永やす代REPORT

2025年1月25日 発行:東京・生活者ネットワーク 発行責任者:山内玲子 〒160-0021 新宿区歌舞伎町2-19-13ASKビル4・5階
TEL03-3200-9189 FAX03-3200-9274 tokyo@seikatsusha.net <https://www.seikatsusha.me>

あなたの選択が東京を変える

東京・生活者ネットは、今夏の都議会議員選挙にむけて、岩永やす代の擁立を決定しました



東京・生活者ネットワークは
40人の自治体議員をもつ
地域政党(ローカルパーティ)です

生活者ネットワークの3つのルール

ルール 1

生活者ネットワークの議員は交代制(ローテーション)。議員を職業化せず誰でもが議員になることで、議員を特権化しません。

ルール 2

議員報酬は市民の政治活動資金に生かし、お金の流れは公開します。

ルール 3

選挙は市民のカンパとボランティアの手づくりです。

都政と自治体をつなぐちからに 岩永やす代 2期目に挑戦

物価高騰が止まりません。女性や子ども・若者、高齢者や障がいのある人、生活に困窮している人、外国人、性的マイノリティの人の「あたりまえの暮らし」が脅かされています。待った無しの気候危機や自然破壊に立ち向かい、安全な地球環境を次世代に渡していく、政治の責任もまた問われています。

多様な背景を持つ人々の人権が尊重され、誰もが自分らしく暮らし、学び、働ける共生社会をみなさまと一緒につくっていきたく思います。広域行政を担い基礎自治体を応援する都政の役割はますます重要となっています。情報公開を促進し、市民が参加し自治する「生活のまち東京」を今こそ実現するために、岩永やす代は2期目の都政に挑戦します。



岩永やす代

プロフィール

■1971年生まれ ■国分寺市立第三小学校入学、第二小学校卒業。第五中学校卒業。中央大学杉並高校卒業 ■94年中央大学文学部卒業。私立高校に勤務(英語科) ■98~2006年高校生の海外留学をサポートする仕事に従事 ■06年~生活クラブ生協で食の安全を守る活動 ■11~21年国分寺市議会議員、文教子ども委員会委員長など
■21年東京都議会議員初当選。公営企業委員会
■趣味:音楽鑑賞(弦楽四重奏)、韓国ドラマを見ること ■家族:夫、子ども ■国分寺市東恋ヶ窪在住



岩永やす代
ホームページ

●東京・生活者ネットワーク岩永やす代の活動を紹介します。

岩永やす代 REPORT



岩永やす代
ホームページ

都政への
ご意見、ご要望を
お寄せください。
都議会生活者
ネットワーク
ホームページ



岩永やす代一般質問から 2024年都議会第4回定例会

昨年日本では、政治とカネの問題も旧統一教会の問題も置き去りにしたまま総選挙が実施され、有権者は与党を少数に追い込みました。しかし、投票率は低く、生活不安や社会課題の発露が投票につながらない事態となっています。裏金問題は都議会でも発覚しており、まずは真相究明が求められます。こうした中での開会となった12月11日の都議会第4回定例会本会議において、岩永やす代が一般質問に登壇。困難な時代にあっても、人々が安心して生活できるまち東京を実現に向けたための政策提案を発信しました。質疑から一部をご報告します。

都市のダウンサイジングを

東京は今でも人口増にあります。他の道府県等からの転入による社会増が主な原因です。一方で、高齢化が進み少子多死時代を反映して、死亡数が出生数を上回る自然減が続いています。23年の都内日本人の自然減は5万1231人で5万人の大台に乗り、最多に。都内では大規模再開発が目白押しで、床面積は拡大を続けています。住宅総数は、すでに世帯数を大きく上回っています。今後の人口減少は確実で、そのための準備を始める必要があります。現状を見直し、これからは高さや大きさの制限や減築などが成り立つダウンサイジングに資する制度を設けるべきです。加えて、再開発や公共事業について、市民合意のためのプロセスの充足と、そのための制度づくりを求めました。

広域避難拠点の都立光が丘公園で防災ワークショップ。マンホール型トイレの説明を受ける岩永やす代。



子どもの権利と 子ども・若者の居場所について

不登校の子どもがこの10年間で3倍を超えています。子どもがそのままいられる学校へと大きく変わる必要があります。教職員が子どもの権利を学ぶとともに、学校で子どもに教え広めていくことが重要です。生きづらさを抱えた子どもや若者も増えており、子どもの命を守るためにも、いつでもSOSを出せることを子どもに伝えていくよう要望するとともに、安心して過ごせる若者の居場所の拡充を求めました。

東京都子ども基本条例ができて、まもなく4年。子どもの権利条約を日本が批准して30年となります。都内自治体でも子どもの権利条例の制定が進み、子どもオンブズなどの権利救済のしくみづくりも広がっています。広域自治体として東京都にこそ、子どもに寄り添い子どもをエンパワーする公的な第三者機関、子どもオンブズやコミッショナーを設置すべきと求めました。

一般質問では、エネルギー自立都市、空き家の利活用、高齢者のご近所就労、女性支援、学校給食と都市農業などについて質問しました。みなさまのご意見ご提案お待ちしております。

●岩永やす代さんとともに活動しています



松岡 まり
国分寺市議会議員



小坂 まさ代
国分寺市議会議員



高瀬 かおる
国分寺市議会議員



なかたに あやこ
国立市議会議員



こはま かおる
国立市議会議員



山内 れい子
前都議会議員